

伊賀忍者：忍者変身処（だんじり会館）

一般的に、忍者は黒い衣装と頭巾で身を包んでいると思われる。しかし、実際には、彼らは通常簡単な農民の服を着ていた。忍者は農民の姿になることで、人目を引くことなく人前で活動ができた。忍者の衣装は快適で動き易いものであった。夜になると、忍者は紺や茶色の服を着て闇に紛れた。

忍者は、村の外を間諜として自由に旅行するために、通常、7つの方法のいずれかで変装した。虚無僧姿で、深編笠を被り、尺八を吹いて施しを受けた。忍者は山に向う場合、山伏姿に変装した。町での諜報活動では、僧侶の姿で麦藁帽を被り、顔を隠した。時には旅の能役者、商人、大道芸人にも身を変えた。

忍者は、農具を改良することにより、独自の専門忍具を作成しました。武士以外は刀や銃器を携行することは違法だったが、鎌、刃物、その他の道具は危ない忍具として使用できた。縄と鎖は、高いところに登ったり、距離のある敵と戦ったりするのにも長けていたことが知られている。全盛期には伊賀忍者は火薬の利用にも優れていた。だんじり館では、忍者が街を探索するときに着た伝統的ではあるが、現代的に改良された忍者衣装を借りて着ることができる。